

福士 岬人（ふくし・こうじん）

1、プロフィール

俳誌「石楠」「暖鳥」「北鈴」「薫風」「萬緑」加藤憲曠、中村草田男らに師事。「薫風」創刊同人。七戸俳句会会長を 20 年間務める。

<生没>

1911(明治 44)年 12 月 29 日 ~ 2011(平成 23)年 11 月 19 日

<代表作>

砂灼くる猫背の影曳く一生涯
冷奴疲れたか老いたか思ひつつ
青田風ふところに入れ背より抜く
手抜きせぬ手のひら厚し豊の秋
不発弾並ぶに似たる鮪市

<青森との関わり>

三八上北管内の小学校勤務。俳人協会会員、七戸俳句会会長として後輩を指導

2、作家解説

本名、忠。青森師範学校専攻科卒。三八・上北管内小学校勤務 42 年(うち県社会教育主事 7 年)、1972(昭和 47)年、七戸町立城南小学校を最後に定年退職。1973(昭和 48)年より七戸町教育長(4 年)。のち、青森県社会教育委員、七戸町文化協会会長・顧問などを歴任。1988(昭和 63 年)、勲五等雙光旭日章受章。

句歴は、1936(昭和 11)年、俳誌「石楠」入会。1946(昭和 21)年、俳誌「暖鳥」入会。1959(昭和 34)年、俳誌「萬緑」入会、中村草田男に師事。1963(昭和 38)年、青森県俳句懇話会入会。1966(昭和 41)年、七戸俳句会入会。1980(昭和 55)

年、俳誌「北鈴」入会。1982(昭和 57)年、俳人協会会員。1984(昭和 59)年、俳誌「薫風」創刊同人。1987(昭和 62)年、俳誌「萬緑」同人。

昭和 53 年に七戸俳句会会長就任、以後 20 年間務めた。また、1990(平成 2)年には、青森県俳句懇話会副会長を務めた。

句集には、『残照』(昭和 63 年 1 月 11 日、七戸俳句会発行)、『数え日』(平成 24 年 11 月 19 日、私家版[遺句集])がある。

3、資料紹介

○『数へ日』

2012(平成 24)年 11 月 19 日

200mm×140mm

福士岬人の一周忌に発行された遺句集。本人によるまえがき、あとがき、「薫風」主宰・加藤憲曠の序句が掲載されている。